

正宣寺前住職 法名 宝樹院釈正英 俗名 大野正英 行年八十六歳 の通夜及び葬儀には、ご多用中のところ、ご会葬頂き、又、ご香資を賜り、誠に有難うございました。

前住職は、昭和三年に香川県で生まれ、小学五年生で叔父の所に子供養子として来阪しました。

龍谷大学予科を卒業後は、サラリーマンとして働き、前坊守と結婚、二人の娘を儲けました。

三十四歳の時、先代が往生したのを機に、布教所を継ぐことになりました。

布教所を寺院にしようとしたものの、当時は新興宗教が問題となっており、宗教法人を新たに設立するのが難しい時期でした。もともと楽な道もあつたはずですが、前坊守と共に大阪府庁と何度も折衝を重ね、苦勞の末、昭和六十二年に宗法人正宣寺を設立しました。

また、いろいろな病気にも苦しみました。特に心臓が悪く、二度も危険な大手術を受けました。しかし、病気と上手く付き合ひ、体を大事にして、いのち長らえさせて頂きました。

一昨年十二月に前坊守が往生しましたが、その後も元気に過ごしておりました。今年の六月に入り、検査の為、しばらく入院していましたが、週末は外泊の許可を取り、普段通り、お参りに行っていました。十六日には奈良の大和郡山まで法事に行きました。

退院予定前日の十八日、病院のエレベーター内で倒れ、意識不明の状態となりました。その後、落ち着きを取り戻し、二十日に一般病棟へ移る予定でしたが、その日の朝、容体が急変し、昼の一時三十二分に往生いたしました。あまりに突然のことで驚くばかりでした。

親鸞聖人が八十八歳の時、飢饉で沢山の方が亡くなられたことを手紙に書かれています。「哀れである」と悲しみ、「生まれてきたものは必ずいのち終えていくことは、驚くことではない。いつ死んでもおかしくないものが今生きている。それを不思議と言う。」と。父の死を通して教えられました。

今日まで五十年間お参りを続け、正宣寺という聞法道場をご門徒と維持してまいりました。

後を継ぐ私たちは未熟ではございますが、前住職同様、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

平成二十五年六月二十四日